

高岩顕一先生への献辞

総合管理学部長 松野了二

高岩顕一先生は、2004（平成16）年4月に本学部に着任され、2007（平成19）年3月に定年でご退職される。この3年間、総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残された。ここに深謝の意を表する次第である。

高岩先生は、1965年4月に熊本大学法文学部をご卒業とともに、肥後銀行に入行され、1990年6月から同行企画部広報課長、1991年9月から同行大分支店長、1994年6月から同行水俣支店長と地域の支店長を歴任された後、1995年12月にシステム部長に就任された。さらに、1997年6月には同行取締役、1999年6月には同行常務取締役に就任され、システム部、営業統括部、国際部、資金証券部、総務部、総合企画部担当、システム共同化プロジェクト責任者など同行の核となる多くの部門の責任者として同行の発展に絶大なる寄与をされた。さらに、これらの業務と並行して、多くの会社の非常勤取締役や理事長などを歴任された後、2003年2月に肥銀コンピュータサービスの代表取締役社長に就任された。

ちょうど、この年（2003年）に本学部の情報コースでは「情報システム学」、「情報と社会」という科目の担当者として単なる研究者ではなく、実際に情報システムの開発を経験された方や企業における情報システムについて精通されている方を対象に実務界から迎えたいとの要望があり、高岩先生にお願いしたところ我々の要請を快くお引き受けいただいた次第である。

総合管理学部が掲げる学部理念の中に「理論と実践の総合」、「哲学と実学の総合」がある。教育・研究畑を歩いてきた教員はえてして、「理論」には強くて、「実践」についてはそれほど強くない人が多い。また、理系の教員はえてして「哲学」よりも「実学」に重きを置く人が多い。高岩先生はこの点、肥後銀

行のシステム構築の責任者を勤められ、「実践」についても強く、また、哲学の下地の上に実学にも強く、本学部情報コースの教員として不可欠であった。

本学の教育分野においては、「情報と社会」、「情報システム学概論」、「専門演習」等の科目をご担当いただいた。「情報と社会」では高岩先生の豊富な企業におけるシステム開発のご経験を基に、教養科目として誰でも分かるように優しく、しかも芯を捉えた講義をされ、また、「情報システム学概論」では専門科目としての内容に相応しく、単に技術面にとどまらず、実際の運用上必要な「人」の面から捉えた内容をご講義いただいた。さらに、俗に「ゼミ」と呼ばれ、我々教員の個性が最も反映される「専門演習」においても折に触れ、高岩先生の肥後銀行におけるご経験を基に社会人1年生のあり方から、上に立つ者の心構えまでをお話していただいたと漏れ聞いている。これらの話は、大学や研究機関に直接就職し、企業経験のない教員からは聞くことのできない貴重なお話であり、高岩先生のゼミ生にとって社会に出た後の指針ともなるのではないかと思われる。

高岩先生は、また本学の運営面においても、学生部委員会、外国語教育センター運営委員、就職対策、学会監査、学会理事、人権委員会と多くの委員会で多大な寄与をいただいた。特に、学生部委員会や就職対策委員会では学生の就職活動に対する動機付け教育をはじめとした就職指導に加え、企業との情報交換等に積極的に取り組んでいただいた。さらに、6月に行われる保護者懇談会では高岩先生の数々のご経験を基に「企業が求める人材像」という題名でミニ講演をしていただいた。この内容は企業が求める人材に育てるために保護者として指導すべきことも含んでおり、高岩先生の講演に、参加者の多くの方々が頷いておられたのが印象的であった。

以上、高岩先生のご経歴及び熊本県立大学におけるご業績について簡単にご紹介させていただいた。最後に、高岩先生が今後もお元気で充実した日々を送られることを切に願うものである。